

個性が光る!クラフトバック

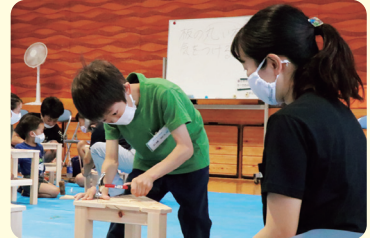
8月11日、芦野公民館で初心者エコクラフト教室の3回目(全5回)が開かれ、12人が参加。黙々とクラフトバックの制作に熱を込めました。

紙バンドで作るクラフトバックは、丈夫で軽く、ニスを外側、内側に塗ると汚れも染みず、使い勝手の良いバックです。この日は、バックの深さを自分で決め、段を編みました。



▲オシャレなバックが完成しました(8/25)

木との触れ合い 親子木工教室



8月8日、高原公民館で親子木工教室が開かれ、17組38人が参加しました。はじめに、町職員が「この木工教室で使用する木工キットの購入には、森林環境税が使われています。親子で木に触れ合うことで、木のこともっと知ってください」と話し、制作のときに気をつけることを説明しました。

子どもたちは、木の手触りを感じながら家族と協力し、三角万能台を作り上げました。秋元桜愛さん(11)は、「組み立てると木に釘を打つのが少し難しかったです」と、木を使ってものを作ることを楽しんだようでした。

地域学習〜廃校の利用を考えよう〜

8月27日、那須中学校で3年生の総合的な学習の発表会が行われました。

生徒たちは、町にある廃校の利用について、「給食レストラン」「運動場」「公園」等、テーマを決め、その目的、利用方法、自分たちにできることなど、地域を盛り上げるにはどのように利用すればよいか考えたことを、保護者と学校運営協議会委員へ向け、班ごとに発表しました。

また、「地域の問題点や改善点を考えることができた」「廃校利用を考えることの難しさが分かった」「普段は考えない廃校利用の仕方を考えるのは、楽しかった」「わたしたちの提案が実現し、町の活性化につながれば嬉しい」とこの授業をおして学んだことを話しました。

最後に、廃校の利用について生徒たちにアドバイスをした元宇都宮大学教授の廣瀬隆人氏が、「発表表の中にテーマを決めた理由や、具体例、だれのために考えたかなど、地域づくり本質があり非常に良かった。また、どの発表にも自分たちがやることの提案があり、自分が地域をつくるんだという覚悟が育っているのが見えた。やったことのないことでも、できる力。自分のその力を信じてください」と講評しました。



▶発表会のあとの、グループワークでは、生徒たちと保護者らが、「住みやすい街とはどんな街か」「地域の人の交流がなぜ必要だと思うのか」などについて、話し合いました。保護者からは、「子どもたちのやりたことこの意見が聞けて楽しかった」との声がありました。